

## <今朝の聖書から>

村上 定幸

【人に対して大地を呪う】込み入ったような表現の21節ですが、ちょっと見てみましょう。大地を呪わないと“人に言われた”と訳されていますが、読み進めると“理由”が人にあるというように、ハッキリ訳し出せること、“人のために”あるいは、“人との関係に於いて”という意味が分かるような訳になりそうです。洪水の後、神様は御自身を確認するようにこう言われるのです。それは捧げものをした後の交渉などによって決まったものではありません。私達には神様の摂理ととっても良いものです。そしてこのことを聖書は契約とっています。人々が生きながらえることが出来るように環境を整えられたのです。“良い環境はすべて神様から出ている”のは当たり前のことですが、実に忘れやすいのが人間なのではないでしょうか。またこの箇所“思うことは幼い時から悪いのだ(8:21)”という言葉に聞く必要もあるでしょう。私たちは棄て、豊かな土地を捨て去り破壊し、荒野にしてしまうのがとても上手なのです。“美しい自然を味わう”というのはとてもよい響きの言葉ですが、味わった瞬間、その環境に破壊の鋏を下したことになります。けれども、神様は自らを指して誓っておられます。“種をまくことも刈り入れることも(カインは汗しました)”守られます。そのような人のゆえに、主は地を呪われないのです。

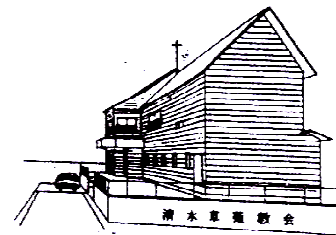
【祝福】祝福は、約束であり保証だということを思い出しましょう。私たちは挨拶のように“祝福がありますように”と言う時がありますが、聖書の祝福は保証なのです。騙されて祝福をしたイサクは、エソウに“もう祝福はヤコブにしてしまった”と言います。私たちが一つのものを、二人の人に譲ると約束しないのに似ています。“産めよ増えよ、地に満ちよ”は具体的なものであり、主の契約・約束のもとに、謳歌せよ言われます。

【地のマネージャー】9章に進みますと、祝福についての契約が更に語られます。その一つに“命あるものを食物とするがよい”というのがあります。それまでは“青草を食物とすること”は許されていましたが、肉食は定められていませんでした。このことだけを契約だと理解すると、世界の自然は完全に破壊されてしまいますでしょう。しかし私たちは、“優しい吸血鬼”の様なもので、動物の肉を食し、それを悪いことだと思ふのです。ものすごい化石燃料を消費し、自然保護が出来ていないと叫ぶのです。

【命の贖い】いよいよ“血の贖い”について進みましょう。主は“管理を行う力が人にあることと、伴う責任”を掬とされます。主イエスの血の贖いです。“青草と同じようにあなたたちに与える(9:3)”のように、食物を豊かにされました。“肉は命である血を含んだまま食べてはならない(9:4)”というのはどういうことでしょうか。人の罪により人を人らしくないものにしてはならない、ということです。人の巨大な罪のために御子の血が流され、信じ恐れる者を契約の内に置かれたのです。 つづく

# 週報

2012年 3月 4日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042